

第2回

農の風景育成ワークショップ

2022.6.18.

鹿骨小学校

NPO 法人 urban design partners balloon

鈴木亮平

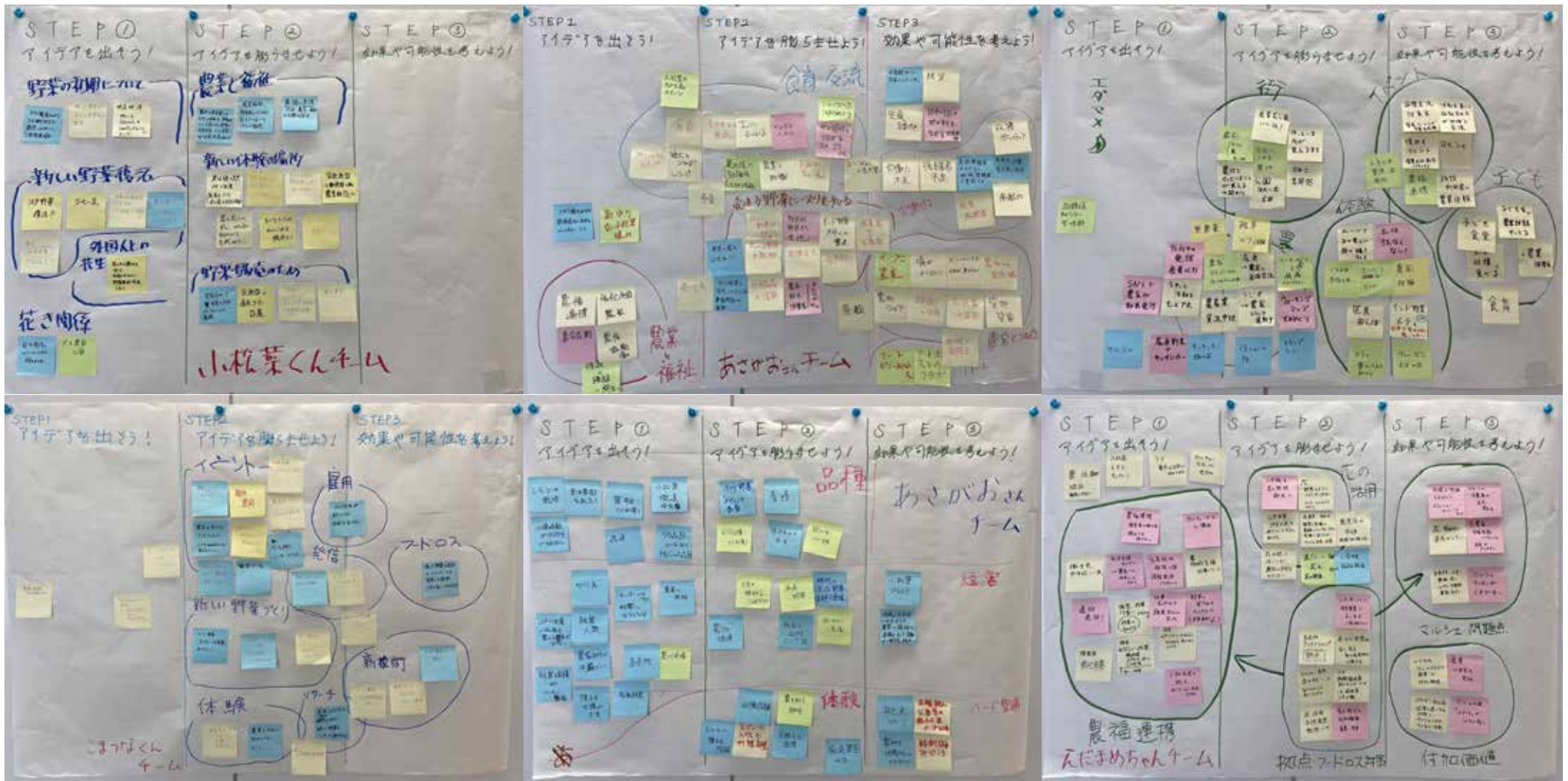
balloon

urban design partners -since 2009-

前回の振り返り

アイデア・ワークショップ (4月23日)

- これからの鹿骨の農業を楽しくするアイデア
- 鹿骨の農とつながり豊かに暮らすアイデア



① 「生産」に関するアイデア

担い手／体制／農産物

新たな担い手を確保する

- ・ 農福連携
- ・ 婚活パーティー

新たな体制

- ・ スマート農業
- ・ 農業法人

新規農産物

- ・ 外国人居住者のニーズ（ex. メティ）
- ・ 歴史を活かした農産物（ex. 江戸野菜、新川梨、果樹）

② 「販売」に関するアイデア

販路／六次化／場所

□販路の開拓

- ・ 地域の農業の営業マン
- ・ 地域でのブランディング
- ・ 飲食店、消費者のニーズの把握

□加工品の開発

- ・ 漬物文化
- ・ パウダー
- ・ お弁当

□販売する場所

- ・ 直売所
- ・ 移動販売
- ・ マルシェ

③ 「コミュニケーション」に関するアイデア

出会い／市民消費者／PR

農業&農家を知ってもらう

- ・ 農業体験
- ・ トークイベント、ラジオ中継
- ・ マルシェ

市民消費者の育成

- ・ 食育
- ・ 学校との連携
- ・ 住宅の形態の誘導

PR イベント

- ・ マルシェ
- ・ まちあるき
- ・ 花の道づくり

農の風景育成地区

豊かな農の風景を守るための手法の1つ

□ 「農の風景育成ワークショップ」の目指すところ

都市農地 = 農家さんだけで守るものではなく、地域みんなで守るもの

▷ 地域住民が農を守るために主体的にできることは何だろうか？

▷ みんなで考え、手を動かしてみても、可能性を探っていく

→ それをサポートする仕組みや体制を行政がつくる

「農の風景育成地区制度」の活用

▷ 地区指定に向けた調査・検討

ex. 住民アンケート、先進事例調査

アクションに向けた3つの問い

住民主体で何ができそうか？

①担い手

- ・市民がどう労働力となり得るか？

生産における担い手：農福連携、バイトのマッチング、栽培のサポート

販売における担い手：マルシェの企画・運営、加工品開発、飲食店への営業

②PR

- ・地域の農業を知ってもらい、理解や関心を高める仕掛けは？

知ってもらう：農業体験、農家さんと話す機会、パンフレット、コラボイベント

関心を深める：料理体験、職業体験、市民農園

③食育

- ・将来の農業を支える消費者をどう育てるか？

地域：食育体験農園、マルシェ、こども食堂、花の道づくり

家庭：料理レシピ、漬物文化

学校：学習パンフレット、給食

本日のグループディスカッション

アイデア出し&グループ分け

①アイデアを出そう！

テーマごとにテーブルに分かれて、どんなアクションができそうか検討

▷ アイデアを2～3つに絞る

②共有しよう！

各テーブルで出たアイデアを発表

③活動グループを組もう！

出てきたアイデアを整理して、今後の検討・活動するグループを編成

▷ 自分がやってみたい、興味のあるグループに参加する

▷ 次回以降のワークショップのグループ